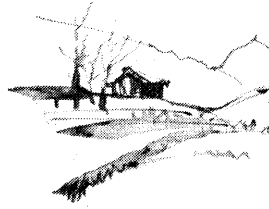


## 座談会

### 環境とこころ



#### 環境とこころ

周郷 環境とこころ、環境と教育といってもいいんだけど…。これは実際は大きな問題なんだな。各人が一日といえども離れる事のできない問題だな。そして地球的問題です。誰か口火を切って何かいってください。

母A 三年前になりますけれど、三年保育に入って初めて、入園式の前に母親の集りがありました時に、ちょうど春の雨だったんですね、その時。それで周郷先生が、春の雨が草木にし

しとしみこむように、物事が本当によくわかるという事が、今の時代にはなくなってしまうねと、お嘆きになったのが最初に印象に残る、印象に残るなんていうなまやさしい事じゃなくて、ぐっとまいりまして、それからこの三年間、そういう事を根本に考えたいなとその時思ったんです。実際には

だいがさがさと過ごしてしまった事もあります……。

環境とこころって大変大きな題でわからないんですけど、子どもの心にとって、まず身近な環境は親だと思えます。ですから春の雨が本当にしっかりとしみこんでいくようなわかり方を、子どもが一つ一つの現象でうけとめていけるようにするのも、親の態度いかにかかっているんじゃないかな、とその時思いました。それは忘れた事がありませんでした。

でもたしかにこの幼稚園で、そういう傾向に子どもが育ったという事は非常に感謝しております。

周郷 今の話でよく、思い出ししましたけれど、春の雨っていうのはまだ芽が出てくる前の草に降る雨なんです。芽生えの前、根にしみこんでいくわけですよ。これがなければ、この一年枯れたままですよ。

周郷

博  
ほか

しかし、ぼくが幼稚園の園長をしてる間に、たとえば石川啄木のいったように、子どもたちが巨木のように育つような環境を作る事はできませんでした。失敗の連続でした。そして春はやめます。幼児教育という事で、教育のどこが間違っているかという確信を、身をもって感じましたから……、もつと大きなスケールで、教育というものが人類全体にとって何であるかを、国際的な規模で考えたいと思うもんですから、中国へも、ロンドンへも二、三ヵ月行ってきたいと思えます。

しかし、この幼稚園ではぼくはそういう環境を作れませんでした。幼稚園だけが環境の全部ではないんですね。さっき偶然アメリカの、だんなさんは電気の会社に勤めていて、その奥さんで、心理学をやっているドクターもつてる人が来ていましたが、アメリカではドクターとるのやめるんだそうで

す。ドクターが多すぎるから。彼女もいつてましたが、アメリカは広い場所があるしね、隣の人は同じ人じゃない、日本みたいにくらべようがない、違った人がいるわけ。そしてやっぱり、結婚して家の中にとじこもっているという事は、不幸なんです。

彼女の息子っていうのも、末の息子はたった一人でアメリカにいて、だんなさんは彼女を送って日本に来ていて、一人の息子はロンドン、もう一人の息子はパリにいるんだって。世界中にちらばって、そしてお互いに尊敬しあっているんでね。これでいいじゃないか、何もずっと一緒にいる事はないじゃないかっていつてました。ぼくは、おそらくそういう生き方が、人間にとっても幸せなんじゃないかと思えます。ところが、だんだん話してる内に、  
「日本の人たちは保護されすぎて、そして家の中に入りすぎてる」っていうん

です。これはぼくがいったんだけど、もろう事ばかり、田中内閣と同じで、うまく金もうける事ばかり考えて、与える事を考えてないから、日本のお母さんたちも自然にそうなりますよね。家の中にもぐりこんでて、何か幸福をもらおうと思ってる。彼女は、それはだめだっていうんです。やはり、結婚しても勉強しなきゃいけない。そして報酬の伴わない、病気で困ってる人やなんかの所へ行って、ボランティアとして仕事をやらないと幸福になれないと彼女はいいました。

家庭のお母さんも子どもにとって重要な環境です。最初は、お母さんのお乳が全世界であった。そして次にお母さんを通じて、まわりの環境というものを、ただ環境というものは解釈がつかない、ただ意味をもたないのであって、お母さんの解釈を通じて意味をもった環境になるわけです。お母さんが欲ば

りであれば、まわりは欲の対象にしか  
なりません。そういう事も全部含めて、  
この幼稚園でも、山へ連れて行こうと

かいろいろ考えましたけれどもね。お  
母さんたちともよく話し合うチャンス  
だと思って山も考えました。それから  
子どもも山の中の本当の美しさや、さ  
びしくなつて日が暮れた時に一緒に星  
を見るとか、いろいろ考えましたが、  
思うようにならない事が多すぎました。

しかし苦しんだって苦しんだ甲斐が  
ありません。苦しんでもへこたれませ  
ん。苦しめば苦しむほど、心も、物事を見  
る目も、拡大していきます。この四年  
間の苦しみは、ぼくにとつて感謝です。

### 名誉・成功・グロリー

母B 園長先生も今年度いっぱい  
すし、皆さんも何かおききになりたい  
事をどんどん、ききだめつていつちゃ  
何ですけれど、この「環境とところ」

という題にはずれてもかまいません  
ら、おっしゃってください。

母C 今のお話の続きなんですけれ  
ど、ある程度家庭に入つて子どもが成  
長すると仕事がなく、趣味に生きる  
という事もいいんですけど、今、実  
際、病院で福祉その他つていうと本  
当に人がなくて困っているんですね。

周郷 いないんだよ、たしかに。

母C そして実際には、収入が伴  
うか、名誉のある事でないとやる人  
が少ないんじゃないでしょうか。それ  
を名誉を考えるような考え方ができ  
ればいいんですけど、今のところ  
まだそれができていないつていう事  
がこわいと思います。

周郷 あなたが今いいだしたから  
うんだけれど、今、日本人にとつて、  
名誉って何だろう？ 今、ないんじ  
やないかな。英語でいえばグロリーが  
ないんじやないかな。

母C 目標つてものが、昔はあつ  
たと思います。

周郷 そりゃ天皇帝時代の価値観は、  
ここで進化しなきゃならないんですよ。

母C 戦争中、あの時代はあれで、  
全体が生きる目標があつたわけですね。

周郷 名誉ある、名誉ある決断とか  
ね。もう一つ、前の学長の蠟山先生が  
「周郷君、日本人にとつて、成功する  
つていう事は何なのだろう」といわ  
れた事を思い出します。

東大へ入るのは成功でしょうか。成  
功つていうのは、何て短距離でいや  
らしいものになつたんでしょう。もつ  
と人の一生涯というものを考えた時に、  
この時代に成功というものは何です  
か。一人の人間が成功する、その人の価値  
を実証したということ……。今の日本  
では欲にかられて、身近に考えすぎて  
います。そして子どもをだめにして  
います。

人の一生涯って事を、二十一世紀からもっと遠い地球の未来っていう事を、考えてごらんない。親子が信じ合って生きて、そして死に近づいた時、おれはやるべき事をやったという成功を味わわせるにはどうしたらいいでしょう。お茶大附属幼稚園を出たなんていう事は、問題じゃないんです。お母さんの本当の願いはそこにあるんじゃないでしょう。政府がよく、公害の長期ビジョンなんていうけれど、われわれはああいうのに関係なく、長期ビジョンをもって教育を考えなきゃいけない。

**母D** いわゆる、一つの目的があるとおっしゃいましたけれどね。人間の領土的野心というか、洗脳といった感じをうけるんですけれど……。

**周郷** ま、日清、日露の戦争で成功をおさめていますね。そしてそのころの日本人は素朴でした。今みたいにごう

慢じゃなかった。二つの戦争とも、勝つと思つてやった戦争じゃないでしょう？ 第一次世界大戦、そしてそれからあとは、勝つという事を考えてやっただでしょ。よごれてますよ。もし本当に戦争をやるんなら、北ベトナムの人のように、勝つなんて事は考えないでやらなきゃ、グロリーはないですよ。

それは人生においても同じです。この手で勝とうなんて事はよごれてますよ。名前を売ろうなんて……。しかし日本人に多いんだな。勝とうと負けようとならなきゃならない事はあるんです。

### 神秘的な子ども

**母D** 現在世の中が多様化され、その中でなかなか自分の目的っていうものを生み出すのがむずかしいのです。子どもにそういう生き方をさせるには、まず母親の勉強が大切だと思つて、私

は今年三年保育に入れていただいて二期をすごしたわけですが、先生のお話を何回かうかがつて、何か少しわかりかけてきたような気がしますが……。

**周郷** あのね、ああいう、新聞に書いたものとか、テレビとかはだめなんだよね。ぼくはこう思います。本当に大事な事は、言葉ではいえないものの、そうでしょ？

今日は、子どもたちに、神様っていう言葉を使おうって気がしたんだ。神様ってものはわからないものなんだ、でも、それがなければぼくは生きてはおれない、説明つかないものなんだっていいと思うただけだね。でもあのチビにいつても、と思つて……。

**母A** 私は、あの羽曾部先生の詩集の話をつかなかさつた時、今の子どもたちに戦時中のこういう感覚がわかるかしら。つて申し上げましたら先生は、いや、本物はどんな物でもぶつけば、

子どもはわかる本能をもってるものなんだよ”っておっしゃいましたね。ですから、神って事をおっしゃってわかると思います。

周郷 わかる……。だけど大人のくせで、ちょっと説明するじゃない？

本当に大事なものは説明がつかないんじゃない？ だから、心臓の事をいつてそこからいおうと思いました。あなたの心臓はいつかとまる時がある、心臓は動いている、そうすれば人の悲しみもわかる、そして地球全体の事も感じてわかる、これはどこからきてるんだ、といおうと思っただけど、説明になってしまふんだ。

母A またいわせていただきますが、この間本人の祖父がなくなつて、とても生きてるって事を感じてゐるらしいんです。

また、かまきりの卵をお友だちからいただいて幼虫が生まれて、そういう

循環をひとめぐり、この一年間で見たわけです。そうしましたら毎日、生きてるってふしぎだね。でもぼく、わかつたよ”っていつて過ぎてたんです。そしてある朝、”ママ、でもぼくは、

生きてる気持ち、いつぼくの中に入ったか、全然わからない”ってうんです。ですから、それはとても大事な事だから、いつまでも忘れないようにしてね。生きてる気持ちが科学で説明できないって事は大事な事なんだから、ぼくすばらしい事だったから、ママもあなたのノートに書いてくから、あなたも覚えてなさいよ”って親はにげてしまつて、にげてしまつたわけではな

いんですけれど……。そういう事があ

つちゃうのね。一挙にわかるのよね。そして非常に哲学的なんです。だけど、物を食わせすぎたり、ぜいたくさしちゃうと、この能力がこわれてきちゃうんです。で、大人の方が散文的なんです。しかし、”なぜ？”なんて子ども

に問いつめたら、子どもは説明できないです。

だから、小さい子どもってというのは、大人の理解のし方でなくて、こう一挙にわかるという、つまり意識しないでわかるという性質をもってるわけです。それが動物やなんかと共通してもつて、本能に似たようなものなんです。そして、人間の知能っていうものは、動物と違うものなんです。それがこんな乱雑な世界では、子どもから失なわれていくのです。

そして、山へ行って日の出を見るといつても、そばにかいぞえの人がいないと、つまり見る目というものがなけ

れば環境はないと同じです。見る目があれば限りなく豊かなものです。そういうものを育てたいと思っただが、ついにやれなかった。

母 A そうですか……。なぜでしょう。

周郷 なぜでしょうって……。ぼくが大学の教授ならね、ぼくが本当にいい講義をすれば、オーケストラの指揮者のように、学生はついてきます。しかしここでは、演奏者を演奏させなければならぬ。ある種の組織ですよ、あの意味で……。それでやれないわけですよ。

母 E でも、やれなかったって先生はおっしゃいますけれど、私どもは大変感謝している面が……。先生はやれなかったとおっしゃっているが、やはり私どもに非常に大きなものを与えて下さったと思います。(全員 そろすの声)

周郷 だから、もし本当にそれがお母さんたちの心に残っていたとすれば、それはぼくは、非常に感謝です。完全にやっちゃまったって事は、おもしろくない事なの。やろうとする糸口ができてるって事が大事なんであって、やる気があればいつかは実施するもです。

母 A ただ、園長先生ご自身が、子どもたちと接して下さる時間が、少なかった事が、…。

周郷 ここでは接したくなかったんです。だから、海やなんかでは、本当に一緒に遊びました。

まず、小さい事から

母 F 私は、いつも先生のお話をうかがっています。母親自身常に姿勢を正す、というとすぐくたびれるように聞こえますが、そうじゃなくて、自分のまわりのうんと小さい、小さいな事でも、真面目に息子や娘に接して

やれる事がたくさんあると思いました。物を大事にするという事、先生がおっしゃった、乗物に乗ったらすわるな、という事とか。それから、買う時にはよく物を吟味して買って、こわれたからすぐ捨てて次を買いましょう、などという態度自身、子どもに対して恥ずかしいと思うんです。ですから、いつも先生のお話をうかがうたびに、もっと反省しなきゃという気持ちになります。

うちの主人は戦前の人間ですが、自分の息子に、いさぎいい男の子になれ、というんです。というのは、今ここに三十人しか入れない防空壕があって、子どもが三十一人いたら、ぼくは外でいい。って見えるような男の子、になつてほしいというんです。

でも結局情報過多で、その中から取捨選択して、どれを息子に向けようかという場合に、小さい小さい事から始

める意外はないんです。

**周郷** 小さい時から始めるしかないんですよ。ぼくは、家の近所の川を、一生懸命苦勞してやっときれいにしました。でも誰も見てません。そしてやっていると、百姓の人まで「先生、もっと金になる事したら」なんていってね(笑い)。ぼくはでも、そういうながらその年とったおやさんの心を感じるわけです。そういう小さい事から始めなきゃ、環境整備とか何とかいっても、自分でもよごしてるんじゃないの。小さい事でも、やれば今までと違う喜びがあるんです。

電話がかかってくるでしょ、それでぼくは今、川を掃除してるんだっていうと、ふつうの人は「適当な健康でいいですね」っていうんだ。(笑い)

**母F** ですから、やっぱり母親っていうのは、何に対しても前向きの姿勢でいなければだめですね。でも女って

いうのは、どうしても眼の先の事を見がちなので……。

**周郷** それは、皮肉にいうと、日本全体が養鶏場に似ているとよくいうでしょ？ おんどりがいなくてめんどりだけだと。やっぱりおんどりがときをつくっていきなきゃだめなんです。男っていうのはちょっとぬけた所があるからね。でも男がいななきゃ女はだめになっちゃうっていう事も事実です。だから尊敬しなさいって命令はしないけど、男と女っていうものを、神様が作ってくれたんだなあ、女だけがいばつてもいけないし、男だけがいばつてもいけないんだな。

**母F** うちの主人の場合は、ともかくママは目先の事を見ていきなさい、で、自分が、はずれそうになったら引き戻すといえます。ともかく怪獣物とかテレビのいろんなひどい物のはらんしとると、だまってポンと、うんと真面

目な本を二冊ぐらい買ってくるんです。そして、今日は寝る前にママにこれを読んでもらいなさい”っていうんで、はつと私が反省したりすることあります。

**周郷** わりあいといいだんなさんです(笑い)。そんなだんなさんあんまり見ないね。家へ帰ってそういうとい

### 簡潔

**母G** 今日の子どもの会の劇(マツチ売りの少女)ですけれど、子どもたちにわかったかどうかと思って……。

**周郷** 大体、あそこに出てきた少女もありまりあわれな少女っていう感じじゃないね。

小さい子どもに見せる時は、いろいろ説明が多いとだめなの。あきちゃうんです。簡潔ないき方で、おしい所でパッとやめなきゃいけないの。これはお母さんが子どもに物をいう時もそう。

何か印象がまとまらないんです、子どもの中の心の中で。非常にくだけちゃった印象になる。中心に向かってすーっといつて、パッと切れなきやいけないの。

何だか安易な、エンターテインメント、もてなしているのはああいうんじゃないだめだな。非常に簡潔で、ぶっきら棒みたいだけでも、もり上がったところでパッと切れる、それでいいんです。それは日常生活においても、お母さんは口数が多いもんですからね、その調子でやったら印象がまとまりません。

母E それで思い出したんですけれど、先生がこの夏ヨーロッパへいらっしやいまして、一学期の終業式の日に子どもたちにはがきをよせて下さいましたね。あのはがきの文面を、うちの子どもは非常に鮮明に覚えてまして、ずーっとあの小さなものたちよ”っという所を……。そして何かの時に

”ママ、あたしたちは小さなものたちなのね” って申しております。

周郷 ああそれは……。ぼくはね、ヨーロッパで歯が痛くて、したびれてや”と書いたんだけど、ありがたいね。

母F 私は本当にびっくりいたしました。私がおもい子どもにも手紙を書くとしても、ああいう言葉では書けません。格調が高いというか、あれは本当に感謝しております。

周郷 それはぼく、考えもしなかった。ありがたい事です。

### 本当の人間との出会い

母A 今のお話でも感じられますけど、子どもって本物をかきわけける嗅覚か触覚もっていますね。男の子ですのでもいちは申しませんが、うちの子どもは”あ園長先生の写真だ”っていう新聞を切り抜いておもちゃ箱の中に

入れて持っているんです。ただ何か、慕っているというか……。

周郷 いや、それをぼくはいろいろな機会に感じます。

母A 子どもはやさしいやぎが好きのように(笑い)何か、そういう意味じゃなくて、本物をかきわけける力は大人以上ですの……。私は、親としてしてやれるのは、子どもがこれから長い人生で、本物をもっている方たちに多く出合えるような場を作ってやる事だけだと思っております。

周郷 ぼくはずっと前からそういう考えでいます。学校っていう制度があるって、先生がいます。しかし先生っていうのは俸給生活者なんでね。どこで本当の人間に出会うかっていう事が、一人の人間が成長していくのに一番大切な事です。先生なら誰でもいいというわけじゃない。学校の外でもいいんです。どこで本当の人間に出会うか



という事です。

母A それにひと役、まあ子どもよりは長く生きてるので、嗅覚は子どもの方がするどいかもしれないけれど、ちよっと助けてやりたいという気があります。そういう意味で、周郷先生がこの園長先生をなさるという事を、カトリックの方のシスターから聞きましてここへ来たわけです。ですから先生がいつも心配していらっしゃるように、お茶の水という名前でみんな集まったなどという事は、案外ひとりひとりで打診してみると、ないんじゃないでしょうか。

母E 子どもだけでなく、私どもは先生のお話をうかがったり接していられたりしたこの年月というものの、月謝とかそういう事でなしに、本当にしみじみと人生を考えるっていうか、私もこれから家庭をもちながら何か一人の人間として生きていくためのきつ

かけみたいなのを、たくさん教えていただいたような気がします。

周郷 ぼくはお母さんたちもそう思うべきだと思うけど、ぼくは学生にいろいろいたりしたりするのを全部忘れちゃうの、でも向こうは覚えています。相手の人にとって本当に役に立っている事っていうのは、忘れてしまう事ではないといけないの。いい事をやったと思ってるかぎりはいいい事にならない。

別な言葉でいえば、無意識にいい事をしなければいけないんです。これは、お母さんが子どもに対してやってる事もそうだと思います。お母さんが意識してる部分は、子どもはおそらく覚えていないんじゃないか。たとえいい事が意識のまままで実現されても、おもしろ味がないです。

ところが、今の教育っていうのは、全部意識してやってるからいけないんだと思います。効果ばっかり考えて、

意識してやってれば教育やという商売人になっちゃうんです。教育ママというのは、意識の範囲内だけで子どもも自分の望みのように育てようというのであって、それじゃだめなんです。

### 自主性と自治能力

周郷 昨夜、一月六日に放送される座談会に連れて行かれたんですけれど、ぼくはその最後の方でちよっと言いました。

共産党が出てきたっていう事は、自民党にとって脅威なんです。司会の伊藤昇さんがいったんですが、戦後民主主義で問題になったのは、地方の自治、それから住民の自治能力なんです。これが経済大国主義ですべて中央集権で、地方に育たなかったわけです。憲法の中で忘れられていた問題なんです。つまり、地方が自治能力、自主性をもつという事で、中央政府が方向をコン

トロールもできるし、中央と地方が  
ながつた状態にもなりません。

住民とか地方が、自治能力がなけれ  
ば全部中央政府の命令になっちゃうん  
です。危険ですよ。そこで地方の教育  
委員会を公選にするという状態がおこ  
ってきたんです。今のところは教科書  
の選択でも何でも、全部命令通りなん  
です。やっぱりわれわれは、小さな事  
でも政府のいう事になつていけばい  
いというんじゃない、各自が自主性  
と自治能力をもたなければいけない  
です。公害とかゴミの処理とかを見て  
も同じ事です。

有吉佐和子さんが座談会でいつてま  
したけど、あの人はマンションにいて、  
ゴミはできればもえるものもえない物、  
腐る物とか別々に紙に包んで出すんだ  
って。すると管理人が紙じゃいけない  
って言うそうです。皆一緒にビニール  
袋に入れて持ってきて下さいっていう

んだって。有吉さんにいわせると、ビ  
ニールに入れて捨てると、これは永久  
にそのままにいるんです。腐る物も腐  
らない、何万年もそのままにいます。

そういう工合に管理人の感覚も変で  
す。中国はちゃんとやってますよ。ゴ  
ミも資源だから、腐る物はちゃんと腐  
らせて肥料にして大地に返せばいいん  
です。再生できるものは再生すればい  
いんです。そういう事は政府がやって  
くれるからってどんどん捨てたらだ  
めなんです。政府の方から頼まなきゃ  
ならん問題かもしれないんです。

教育の問題なんていうのは、政府が  
いつてるからいいだろう、政府にかな  
つてるからいいだろう、そんな事ない  
ですよ。地方が、あるいはお母さんた  
ちとか、近隣の人同志とかが自治能力  
と自主性をもってなきゃならないんで  
す。政府なんていうのはインドの人が  
いったように、からバケツです。人民

はわいてる井戸水のようなもので、井  
戸水がわいてこなければ政府はからバ  
ケツなんです。ガンジーの弟子がいつ  
た言葉です。今の政府、からバケツと  
いった感じでしょ？ からバケツのや  
れる範囲は、お金の問題だけです。精  
神的な問題にならない。やっぱりぼく  
らが自治能力をもって、責任を問うと  
いう態度、そして大切な問題は一生懸  
命に考えて新しい道を見つけ、汚染か  
ら脱出する、心がやさしくなるという  
ふうにお互いが行動しなければなら  
ないと思います。

母 G 私の家はここから二十分ぐら  
いなんです、その道を歩いてくるだ  
けで非常にのどがいたくなりました、  
公害問題を身にしみて感じました。

周郷 ちよっと聞くけど、その前は  
家の中にずっといたの？

母 G はい。（笑い）

周郷 家の中にいた方がのどはいた

くならないんだなあ。

母 G でも、車の通りがものすごくはげしいんです。ですからそれこそふきつけに排気ガスをかぶるようになりなっています。子どもの方もたんがつまるようになつて、これはひどいと思ひまして、私だけでも、なるべく車に乗らないようにしましたけれど……。少しでもほんの小さい事でも、皆が気をつけていきたいと思ひました。

周郷 公害っていうのも、これからどんどんひどくなりますよね。でも今聞いてると、家の中にいるのが一番安全だっていう事かな(笑)。そんならもう隣り近所ともつきあわないで、家の中でテレビでも見ていたらいいのかな(笑)。

ふたたび、ゲローリー

母 A それは皮肉ですね。また話に戻るようですが、さつき先生は、息の

長い見方をしてゲローリーっていう、そういうものを、今日の子どもの中に入らうえつけていくとおっしゃいました。結局具体的な事でひとつひとつうける事はできないわけですから、なにを子どもにとつてゲローリーにするかという事が、毎日の課題じゃないかと思ひます。今の公害の事でも、子どもと一緒に、ひとつゴミを拾う事もそれにつながらんじやないかと思ひますが、もうちょっと範囲をひろげて、何を子どもの生きがいに、生きがいじゃないですね……。

周郷 生きがいっていうのは子ども自身が見つけていくものです。

母 A そうですね。さつきおっしゃったように、自然に対してもかいぞえがあるように、親が何か……。

周郷 だけど、ほっておいた方がいいという事もいえます。あまり説明過剰で印象がうすくなるならば、むしろ

ほっておいた方がいいんです。というような意味で、親たちがゲローリーなもの求めていけばいいともいえます。

ちょっと気がついた事だけれど、子どもは自分で育っているわけで、非常に時間と辛抱強さがいります。これは今の日本人としては、キリスト教のエッセンスみたいなものを学ばなければいけないと思ひます。辛抱強くなればいけないし、待つという心を、焦つて効果を求めるのではないという事は、キリスト教からしか学べないのではないかと思ひます。効果があるかないかわからないけれど、「求めよ、さらば与えられん」という事は本当です。あるいはそれは死んだあとに実現されるかもしれない。

死んだあとに実現されるという、ぼくは東山魁夷さんの事を思い出します。お母さんが死ぬまで不幸で死んでいったあと、東山さんの絵はよくなつ

たんです。親孝行の彼であってそんなんです。ついに親孝行ができないで、お母さんも兄弟も全部死んじゃうんです。そのあとで、お母さんはもうこの世にいないんだけど、息子は彼独得の絵をなしとげました。

### 竹馬とお手玉

母 H 今日子どもたちもたくさんプレゼントをいただきましたね。家へ帰ってからもプレゼントをもらうと思えますけれども、何か、本当に心が豊かになるような、精神的なものを上げたいなとつくづく思いました。

周郷 そう思ってるんだけどね……。もし、ぼくらの子ども時代なら、物はないんだ、だからプレゼントもうれしけれど、今は物が多すぎて物を上げても大して効果がないですね。でも、上げなければあいそうだと思うって、そこでまあいろいろ工夫して、でも今

年はここまでできたでしょう？ 外で買った物じゃない、ここで作って、そして多少買ったにしても個性的で……。クリスマスがともかくここまでできた事はうれしいと思います。

母 B お母さま方みんな協力して下さってね。うちのクラスは男も女も手製のものになりました。竹馬を作ろう、といいましたら意外と反対の方が少なかったんで、びっくりしちゃったんです。

周郷 あの竹馬、作ったの？

母 B ええ、作ったんです。竹を切つて。

周郷 そうですか、そりゃ、ぼくよく見たかったな。

母 B 女の子は、お手玉を作ったんです。矩形の布を四枚合わせて……。

周郷 あのね、お手玉とか何とかがあっていう、ヨーロッパにもそれにかわるものがあるけれどもね。幼児教育の時

期に数学やなんか教えるのに、ああいうものをもとにして教えるんですよ。

昨夜の座談会で遠山啓さんがいってました。今の子どもはジャンケンができなくなっただけじゃないかって。これだってやっぱりおもしろいものですよ。この先にいろんな物がひろがっていく基本的な能力をもっています。ジャンケンだってお手玉だって、何でもないようにあったんだな。しかしこれで感覚を養ったり、物の量をはかったり、一種の技倆ね、こう女の子がひどく優美にお手玉を処理するね、そういう事が大事なんです。そういう事をぬきにして教育という変な物を作っちゃったのは困った事です。

母 D つくづく思うんですけれど、私たち戦争に負けて、まず経済的に立ち直ろうという事が第一にされて、心を忘れて、おもちゃ一つにしても、便利な、子どもの気を引くようなものが

多くて、子ども自身が自分の手を使うとか、考えるおもちゃがないのはどうかと思います。

### 選ぶ能力

母F たくさんあるっていう事は、選べる可能性がたくさんあるっていう事じゃないかと思いますが……。

周郷 だからぼくは、子どもを相手にしてもうけようというやつがいろいろな物を作るでしょ。しかし、ある物を拒否するという、そういう能力を發揮してもらいたいと思います。

それはテレビについても実行してもらいたいの、あれだけ日本のテレビはチャンネルがいっぱいあるんですから、選能力の修行の場所としてあれを使ってほしいんです。そうすれば、人生いろいろ誘惑があったって、どの道を選ぶかという時に、グロリアスなデシジョンをやる人間になれると思

ます。

母B それは子どもにもあると思います。うちの上的子なんですけれど、テレビを見てまして、レインボウマンというんですか、あれ、すごいから見ないよ”ってこのごろ消しちゃうんです。ほかの怪物は見るんですけど、レインボウマンはひどいっていうんです。見てて主役がかあいそうだっていうんです。

周郷 どのくらいひどいか、お父さんもお母さんも一緒に見るといいんです。

母F うちの主人は、新聞を見てて「今日は何がある？」って聞きますと、「今日はあれないよ、きっと特別放送があるんだろ”って切っちゃいます。そしてテレビを消さないとご飯にしませんとかしちゃうんです。ですから五歳でも、最近選択ができるようになって来ました。

母B 見てて、結局自分で残ぎやくだからいやだっていうようになればいいですね。

母I 本能的にそう思っているらしいですね。

周郷 本能をもってるはずなんですよ。その感覚をぼけさせるのはまわりです。

母A 先生「デパートは君たちの必要な物は何一つ売っていないよ”っておっしゃいましたね。私もはデパートに行くたびに親子して、負けるもんか、負けるもんかって思います。本当にあれば、商業作戦にひっかかるかひっつかからないかの瀬戸際ですから……。

周郷 そうですよ。またデパートは最近ひどくなりましたね。

母A 本当に……。ぼくに必要な物、何もないのよ、先生もおっしゃったでしょ”っていいますと「うん、ないよ”っていいながら……。

周郷 その中でね。どれか一つ選ぶ  
つていうんならいいですよ。

母 A はい、選びます。

周郷 その方がはるかに価値がある  
んだよ。ぼくにとってデパートなんて  
いうのは、さるまたを買う所でしかな  
い。(笑い)

母 F 子どもは本物を選ぶとおっし  
やいましたが、おもちゃにしても、子  
どもは本物を選びますね。

周郷 だからそういうふうには選ぶ能  
力ね。選ぶっていうのはいろいろくら  
べるんだからまさに学者のやってる事  
ですよ。そしてどれとどれって見てね。  
たくさんだから選ぶのも大変です、つ  
い誘惑されそうになる、そして反省も  
する、これは非常にいい事じゃないで  
すか。

母 F うちはおもちゃ過剰気味なん  
ですけど、結局うちの場合は直すん  
です それと一人っ子なもんですからふ

えちやうんです。でもやっぱり彼が選  
ぶのは、色がついてない、かなり大き  
な積木とか、ブロックしか選ばないで  
すね。最初は毒々しい物にとびついて  
も最終的に返るところはいいおもちゃ  
に返っていくというふうには、最近変わ  
ってきたような気がします。

周郷 それが事実なら、デパートの  
おもちゃ売場にチビをつれてって遊ば  
せて、こりやだめだつて審判者にする  
のもいいね。

母 G あの、くだらないものは、そ  
こで遊んでなさいって、そうすればす  
ぐさめると思うんですけれど。

母 K 私も実は、デパートへ行きま  
すと、遊ぶ場所がありますと、そこで  
遊ばせるんです、そして、どう？ お  
家へ持っていかけても遊びたいおもちゃ  
あった？ っていうと、大抵、い  
らない、っていうんです。ですから三十  
分ぐらいねばってそこで遊ばせるんで

す。

### 連帯感からポランティアへ

母 A もう週刊誌もいやだし、テレ  
ビもいやだし、デパートもいや、何か  
このごろ年をとったせいかわいかな事  
がなくなつたんですけれど、もつとい  
物をうき上がらせるような何か。

母 E 私、このごろつくづく思うん  
ですけれど、何か一人一人が考えてい  
てもどうにもならないという時に、女  
同志のいい意味での連帯感というもの  
がほしいと思います。

周郷 一人一人ではいっても仕方が  
ない。

母 E そうなんです。もしそうであ  
れば、この間も三越で何周年かに何億  
っていうお金を使つたつて新聞に出ま  
したね。あの時に友だちが、社長に直  
訴して三越の物はもう買わないと、そ  
の内何千万かを何かに下さいっていう

ましようっていったんですけれど、いかにせん二人ではどうにもならなかつたんです。(笑い)

周郷 これから、そういう行動ね、よく考えてやらなきゃいけないけど、お母さんがおこすって事は必要です。

この教科書は悪い教科書だ、いくら文部省の検定を通っていても事実を見て下さい、これでは子どもが悪くなります、とそういう事をやっていく必要があります。

母E でもなかなか生まれませんね。

周郷 それがね、グローリアスデザインというのは、勇気をもたなきゃやれないんです。よく考えた上で。田中さんみたいになっちゃった、勇気と決断なんて、あれこっちへもらえばいいんだ。

母B とまかく欲求不満の人って多いんじゃないかしらね。

周郷 そうです。男の人は疲れはて

てるからそうでもないけれど、女の人にはひまがあるとノイローゼになっちゃうわけです。だから、ボランテアみたいな事をやるとか、外国語、中国語を一生懸命勉強するとか、そういう事をやらなきゃだめですよ。

体でも神経でも頭脳でも、使わなければどんどん退化します。退化している状態の中で何か不健康な状態になるから、だんなさんに不満をもったり、いろいろと不満をもってくるわけです。使えば健康になるんですよ。

母C ボランテアのようなものがふえていって、そうすると社会とのつながりができますね。それが子どもに影響していいんじゃないかと思えます。

周郷 ボランテアを、あの人はやってるけど、今本当に病院なんかでは人手が足りなくて医者もいかげんなんですよ。卒業生で、今、病歴の研究をやってる人にききましたがそうだと

うです。そして彼女はアメリカへ行つて病歴の勉強をしたいっていうんで、千谷七郎さんに紹介しました。千谷さんはぼくの親友ですから。精神科の医者も心理学者よりいろいろおもしろいんです。千谷さんの話は哲学的で、ぼくみたいに夢みたいなのところもあってね、いいです。

やっぱり病院なんかへ、報酬なしで働きに行くと、いい友だちができます。いい友だちと出会うんです。やっぱり本当に、しんから友だちになるっていう事は、日本ではチャンスが少ないんです。

ま、のどがいたくならないように毎日テレビを見て家にいるっていうのも一つの健康かもしれないけれど、それじゃ一生涯の中にもぐっていてそのまま棺おけに入行って行ってしまいます。生まれてきたっていう意味はそういう意味じゃないはずですよ。

## 自転車で走る道

母 F それと似た例なんですけど、国道を走ってますと、子どもが黄色いつばのあるビケの帽子をかぶっているのが普通なんですけど、山梨の方を通りましたらそれがヘルメットなんです。これはやっぱり大人の責任かなと思っ

てかあいそうになりました。

周郷 よくいうけれど、子どもも大人も自転車だけが通る道がずーっとあったらね。車ばっかりつっ走って、だめですね。おもしろいじゃないか、お母さんも自転車に乗ってね。

母 L 最初私は、ここへ自転車で通ってたんです。でも皆に笑われてやめちゃいました。それにこわいんですね。通りが。

周郷 この通りはおっかないですよ。でも見るとね、子どもはなかなか頭がよくて、勇敢なのかな。大きなトラ

ックがいっぱい通っているところを、ちょっととまるとその間を、自転車ですーっと行っちゃうの、危険だと思うけれど、何て頭のいい子だろうって感じしちゃいました。

ニューヨークなんかでも、ほとんど盲険ができないんだって、火事とか、殺人とか停電とかっていう事が突然訪れてくる私的な体験で、あとは全部機械がやってくれるんです。もう少し目がさめるような、知的な経験がないんだろうか。自転車ですーっと向こうまで行けて、そこにきれいな泉が湧いてたりね。

母 G 私は朝歩いて登園しますけれど、いろんな道を歩いてきますと、よくそのお宅の寒椿が咲いていたり、いろいろ楽しみながらのんびりとまいます。子どももかえってその方が楽しいらしくこの間あまり急に寒くなりましたので、寒い時だけ車で行きましょ

うかって申しましたら、園長先生ががんばりのある子でなくちゃいけないっておっしゃったっていわれました。

周郷 子どもの方がまともですよ。

あのね、この間座談会をやった時ね。花がおいてあるんです。それが、非常によくできてるんで皆がホンコンフラワーだと思っ

てさわって見ました。本当は本物なの。それが一つの葉の先が枯れてるの、枯れてるからホンコンフラワーじゃないと思っ

たんです。ホンコンフラワーにかけてる所がないの、完全なの。だから人間も欠点があるっていうのが人間でいる誇りなんですがね。でもその内に、枯れた所のあるホンコンフラワーができてきたりしてさ……。 (笑い)

母 B では、いつまでお話してもつきませんが、大変長いお時間をとりまして、ありがとうございます。

(十一月十九日 お茶の水幼稚園)